

# 平成28年 3 月期 決算説明資料

株式会社ユビキタス

代表取締役社長 佐野 勝大

© 2016 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Ubiquitous

# Agenda

---

- 平成28年 3 月期業績の概要
  - － 経営成績、財務状況
- 平成29年3月期の業績予想と重点取り組み

---

# 業績の概要

# 平成28年 3 月期 決算ハイライト

## 前期比

単位：百万円

	H28/3期	前期実績	増 減 額	増 減 率
売 上 高	970	885	+85	9.5
営 業 損 益	▲109	▲208	+99	-
経 常 損 益	▲100	▲209	+109	-
当 期 純 損 益	▲202	▲222	+20	-

- ◆売上高 前期比109.5%、営業損失圧縮
- ◆有形固定資産、投資有価証券等の減損による特別損失計上
- ◆コネクティビティ事業：スマートホーム/エネルギー機器・車載機器・デジタルAV機器向け受託開発・ロイヤルティを獲得
- ◆組込みソフトウェア事業
  - ・高速起動：車載機器向け出荷好調継続
  - ・データベース：OA、産業機器、車載機器向けにロイヤリティ獲得
- ◆株式会社エイム 100%子会社化

# 平成28年 3 月期 決算ハイライト

## 業績予想比

単位：百万円

	H28/3期	修正後 業績予想	増減額	期初 業績予想	増減額
売上高	970	940	+30	1,150	▲180
営業損益	▲109	▲140	+31	18	▲127
経常損益	▲100	▲136	+36	19	▲119
当期純損益	▲202	▲138	▲64	16	▲218

### ◆業績予想の修正開示（2月12日）

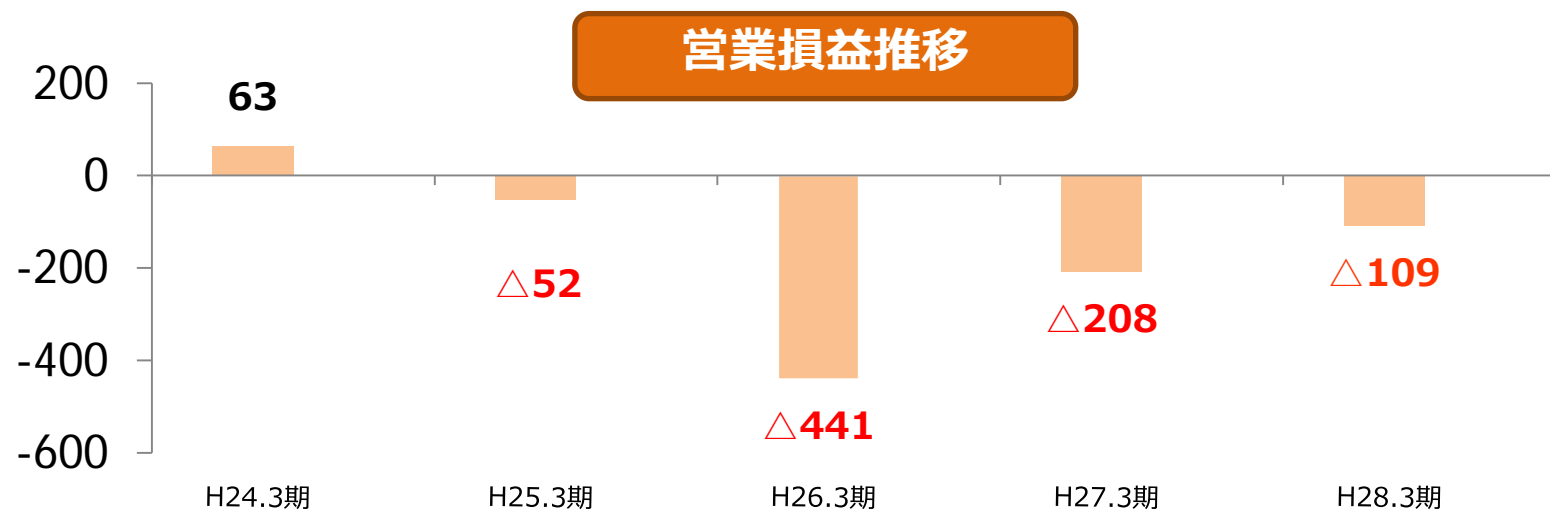
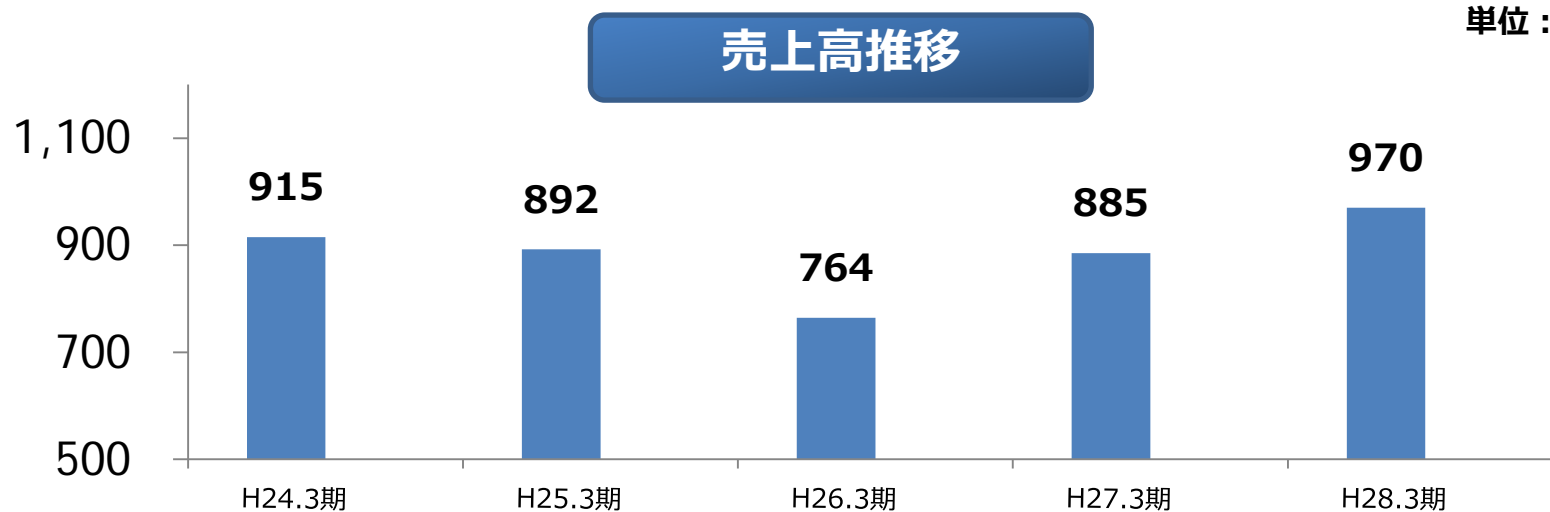
- ・業務提携に基づく案件の成立の遅れ及び失注
- ・既存案件の期ずれ及び、新規受託開発案件の計画未達
- ・M&A案件の成立時期の遅れ

### ◆当期実績

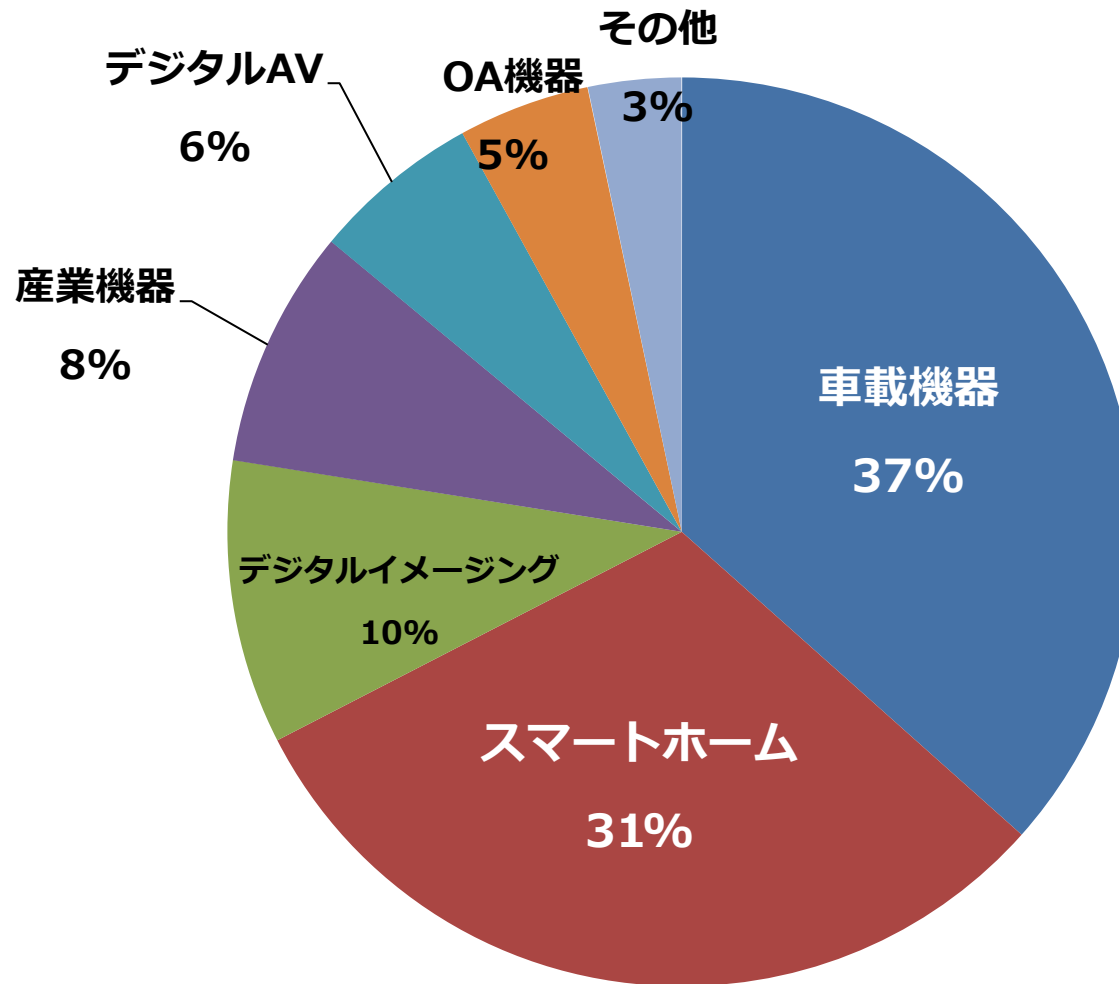
- ・修正後業績予想から後払いロイヤルティが想定以上となり上振れ
- ・特別損失の計上により当期純損失は予想を下回る

# 売上高・営業損益推移

単位：百万円



# 市場別の売上構成比



# セグメント及び製品分野別の売上高(前期比)

単位：百万円

セグメント	分 野	前期実績	H28/3期	増減率
コネクティビティ 事業	組込みネットワーク	350	410	17.1%
	サ ー ビ ス & ソリューション	159	190	18.9%
	小 計	510	600	17.6%
組込み ソフトウェア 事業	デ ー タ ベ ース	226	123	△45.5%
	高 速 起 動	148	246	65.5%
	小 計	375	370	△1.4%
合 計		885	970	9.5%



# 形態別の売上高（前期比）

単位：百万円

売 上 形 態	前 期 実 績	H28/3期	増 減 率
使 用 許 諾	526	546	3.8%
サ ポ ー ト	48	53	10.1%
受 託 開 発	291	339	16.5%
製 品 売 上 高	12	15	22.6%
そ の 他	6	14	139.4%
合 計	885	970	9.5%

# セグメント別売上及び利益

単位：百万円

		前 期 実 績	H28/3期	増 減 額
コネクティビティ 事業	売 上 高	510	600	89
	セグメント利益	△288	△175	112
組込み ソフトウェア 事業	売 上 高	375	370	△5
	セグメント利益	79	66	△13

# 貸借対照表（資産の部）

単位：百万円

	H27/3期末	H28/3期末	増 減 額
流動資産	1,755	2,921	1,165
現金及び預金	997	1,363	366
売掛金	278	332	53
有価証券	399	1,199	799
その他	80	25	△54

■現金及び預金は営業損失により減少した一方、メリルリンチ日本証券株式会社に付与した新株予約権の行使により、1,376百万円の資金調達を実現したため、前期比増となった

■有価証券の799百万円増加は、現金及び預金の一部を、短期の安全性の高い金融商品にて資産運用しているため

# 貸借対照表（資産の部）

単位：百万円

	H27/3期末	H28/3期末	増 減 額
固定資産	263	173	△90
有形固定資産	51	—	△51
無形固定資産	56	30	△25
投資その他の資産	156	143	△12
資産合計	2,019	3,095	1,075

- 建物等の有形固定資産は、減損処理により残高なし

# 貸借対照表（負債・純資産の部）

単位：百万円

	H27/3期末	H28/3期末	増 減 額
負債合計	203	<b>110</b>	△93
流動負債	167	<b>85</b>	△82
固定負債	35	<b>24</b>	△11
純資産合計	1,816	<b>2,984</b>	1,168
資本金	758	<b>1,457</b>	698
資本剰余金	728	<b>1,427</b>	698
利益剰余金	260	<b>57</b>	△202
その他	69	<b>42</b>	△26
負債純資産合計	<b>2,019</b>	<b>3,095</b>	<b>1,075</b>

---

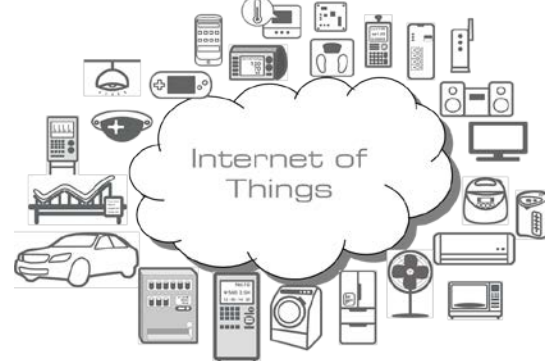
# セグメント及び 分野別動向

## ■ 分野概況

- スマートハウス/エネルギー機器向けに「Ubiquitous ECHONET Lite」、  
「Ubiquitous Wi-SMART」などの関連製品の受託開発売上を計上
- 車載機器向けに「Ubiquitous DTCP」関連製品の受託開発売上、ロイヤル  
ティ売上を中心に計上
- 既存顧客のデジタルカメラ、デジタルAV家電向けロイヤルティ売上、受託  
開発売上を計上

## ■ 新製品「Ubiquitous Securus」の発売開始

- IoT機器に組み込まれる秘匿データを保護して、セキュリティが課題と  
とされるIoT機器へのソリューションとして展開



ET x IT = IoT

(注) ET : Embedded Technology(組み込み技術)

## ■ 分野概況

- 電力小売事業者を中心としたHEMS機器開発案件でのスマートエネルギー関連の受託開発売上、契約一時金売上、ロイヤルティ売上などを中心に計上
- 住宅設備関連向けにHEMSソリューション関連の受託開発売上を計上

## ■ 楽天社とのエネルギー関連サービスにおける業務提携の基本合意

- エネルギー関連サービスをクラウドで提供する企業向けのプラットフォームの共同開発等の具体的な協業内容の検討及び開発を継続

## ■ 有力パートナーとの協業によるワンストップでのIoTプラットフォームソリューションを提供できる体制の構築を推進

- トrendマイクロ社との間で、IoT向けセキュリティソリューションの共同開発に合意
- セールスフォース・ドットコム社の進めるIoTソリューション「SalesForce Platform」との連携
- マゼランシステムズジャパン社との間で「クラウドを活用した高精度位置測位ソリューション」の実現に関する業務提携に合意

ET x IT = IoT



## ■ 分野概況

- 既存顧客より安定したロイヤルティ収益を中心に売り上げ
  - 産業機器、OA機器、車載機器等の既存顧客を中心に獲得
  - ティアック社のハイレゾ対応ポータブルヘッドホンアンプ/プレイヤー[HA-P90 SD]への採用事例発表



2015/10/8発表事例  
ティアック社ハイレゾ対応ポータブルヘッドホンアンプ/プレイヤー  
「HA-P90SD」

## ■ 分野概況

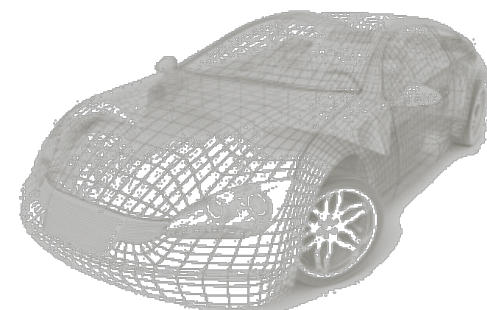
- 車載機器（カーナビ）関連中心に拡販中
  - 既存顧客（製品採用）の自動車メーカーの出荷好調を背景にロイヤルティ収益が安定
  - カーナビ各社の多数に浸透、新規横展開獲得含め、製品化に向けた開発、評価が進行中
- 車載機器も含めた海外案件活発化、評価、製品開発対応中

お陰様で  
累計700万本  
突破！\*

\* 2016年1月末現在



QuickBoot搭載製品：2015年12月8日発売  
JVCケンウッド社「MDV-L503W」[MDV-L503]



---

## 平成29年3月期の業績予想と 重点取り組み

# 平成29年3月期 連結業績目標

単位：百万円

	H28/3期 (実績)	H29/3期 (目標)	増減額
売上	970	1,520	550
営業利益	△109	△97	12
経常利益	△100	△95	5
当期純利益	△202	△98	104
のれん償却前 営業利益	—	20	—

※平成28年3月期：当社単体の実績

平成29年3月期：エイム社を含む連結の業績見通し

※のれん償却前営業利益：企業買収によって生じるのれんの償却額を除外して算出される営業利益のこと

## ◆売上

- 当社既存事業の拡大（詳細は後述）
- エイム社の子会社化により業容拡大

## ◆営業利益

- エイム社買収により発生したのれん償却費の控除後の営業損失は、前期と同水準
- のれん償却前の営業利益は20百万円の黒字化を予想

# 平成29年3月期 単体業績目標

単位：百万円

	H28/3期 (実績)	H29/3期 (目標)	増減額
売上	970	1,100	129
営業利益	△109	△98	11
経常利益	△100	△87	13
当期純利益	△202	△89	113

## ◆売上

- 当社既存事業の拡大（詳細は後述）

## ◆営業利益

- 将来への成長投資としての人件費等の増加

# 売上目標内訳

単位：百万円

		H28/3期 (実績)	H29/3期 (目標)	増減額
当社連結 売上 (平成28年3月期は単体売上)		970	1,520	550
I. 当社単体 売上		970	1,100	130
コネクティビティ 事業	組込みネットワーク	410	490	+80
	サービス & ソリューション	190	190	－
組込み ソフトウェア 事業	データベース	123	100	△23
	高速起動	246	320	+74
II. 子会社（エイム社）売上		－	420	－

# 平成29年3月期 連結業績目標

## 当社

コネクティビティ事業  
売上高 6.8億円

- ・IoT分野でのエンドツーエンドのプラットフォーム展開とスマートエネルギーなどの分野特化型ソリューション、セキュリティ製品の展開による収益化

組込みソフトウェア事業  
売上高 4.2億円

- ・車載機器、OA、産業機器向け中心での確実な収益確保と次世代スマートカーのソフトウェアプラットフォームをパートナーと共に展開

## 子会社（エム社）

売上高 4.2億円

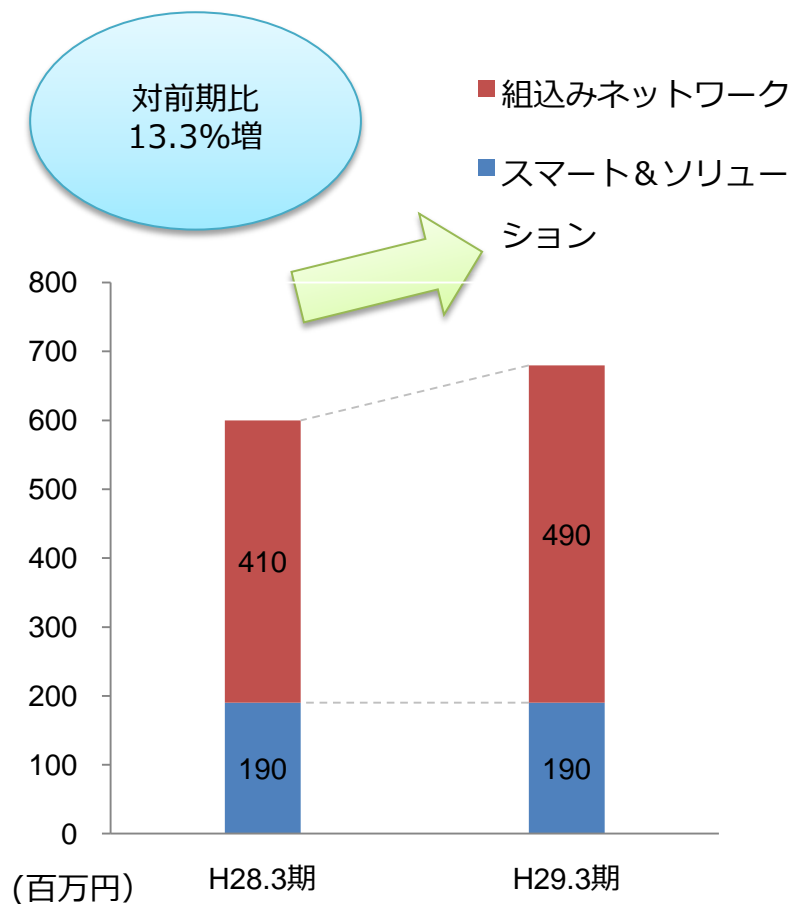
- ・車載機器メーカーを中心とした音楽関連データライセンスおよび受託開発の展開
- ・グループ内開発力の強化

車載、スマートライフ/エネルギー  
を中心としたIoT市場に注力

平成29年3月期に  
連結売上高15.2億円を達成

# コネクティビティ事業 – 重点取り組み

セキュリティ事業立上げの基礎固め、及び、組み込み製品とクラウドのシナジー追求



## ■戦略

- IoT市場向けネットワーク、セキュリティ製品の展開と拡販強化
- 組み込み製品とIoTクラウドの統合ソリューション化を強化、パートナーとの協業による展開と拡販

## ■注力分野、製品 ※

- **スマートライフ関連**：ガス市場向けに、機器の遠隔保守ニーズに対して、「Ubiquitous ECHONET Lite」、  
「Ubiquitous NetworkFramework」とdalchymiaによるソリューションを提供

※スマートライフ関連：スマートホーム関連とスマートエネルギー関連を総称したもの



# コネクティビティ事業 – 重点取り組み

セキュリティ事業立上げの基礎固め、及び、組込み製品とクラウドのシナジー追求

## ■注力分野、製品

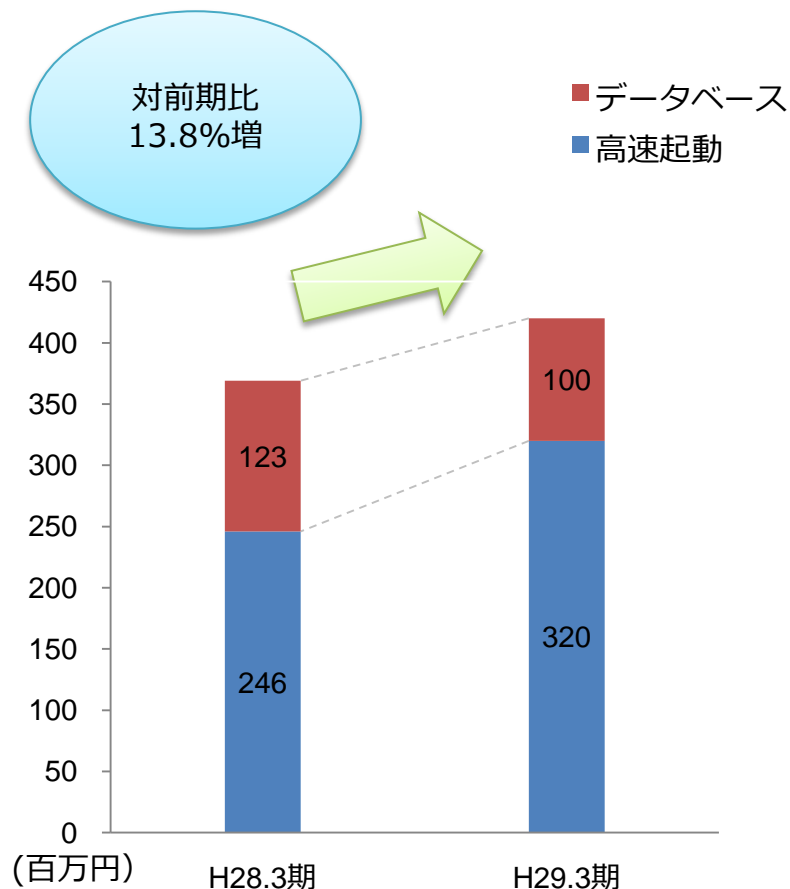
### • 車載機器関連：

「Ubiquitous Securus」、「Ubiquitous HDCP」、「Ubiquitous DTCP」、  
「Ubiquitous TPM」のソリューション販売

### • IoT関連：IoT開発キットによる「Network Framework」SDKとdalchymiaの販売機会強化、特定業務・用途向けパッケージ商品の企画・開発

# 組み込みソフトウェア事業 – 重点取り組み

自社製品の強みを生かしたターゲット市場でのシェア、顧客獲得による売上の拡大



## ■戦略

- **データベース**：既存顧客の継続採用と産業・OA機器分野を中心とした安定顧客獲得、顧客ニーズに対応する機能維持の継続
- **高速起動**：車載機器向けのシェア拡大に必要な機能強化の継続と既存顧客での横展開・新規顧客獲得、海外顧客向け販売を強化

## ■注力分野、製品

- **データベース**：OA機器、検査機器、産業機器などに向けた拡販とIoT機器の分散データ処理の可能性検討
- **高速起動**：車載機器(IVI/DA)、産業機器、デジタル機器でUIを持つ機器、海外企業のAndroid/Linux搭載デジタル機器 / 車載SoCの最新技術対応(R-Car Gen3, i.MX6x など)

# グループ子会社（株）エイム – 重点取り組み



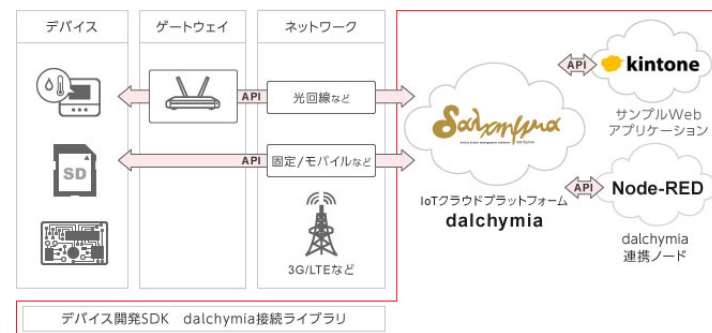
- 2016年4月1日に100%子会社化
  - 2009年から当社と受託開発取引を継続
- 米 Gracenote社とのパートナービジネス
  - 主要車載機器（カーナビ）メーカーへの楽曲認識技術の組込み開発
- 自社製品サービスの販売
  - 楽曲、アーティスト名などのフリガナを付与する技術およびコンテンツサービス、学習型推論エンジンなどのライセンス
- その他受託開発
  - 国内主要車載機器メーカーなど既存顧客からの安定受託開発
  - その他、ユビキタスを含めたその他の顧客からのソフトウェア受託開発
- 今後の展開
  - グループシナジーとして、開発リソースの効率的活用と自社保有技術、IPのグループ内での拡販を通じて収益拡大に寄与

---

# トピックス

# 「IoT開発キット」の発表

- IoT開発キット – IoTサービス開発を迅速、簡単、低価格でスタートできる評価キット
  - 対応センサー機器やIoTゲートウェイを簡単にIoTクラウドに接続、サービス開発をスタートするためのソフトウェア開発用のライブラリとクラウド利用料をパッケージ
  - ノンプログラミングでサービス開発を可能にするNode-RED用ノードやサイボウズのkintone上でIoTデータを可視化できるサンプルWebライブラリも提供
- 2016年4月20日発表 – 5月20日発売開始
- 日本TI社のセンサー、STマイクロエレクトロニクス社の開発ボード、アットマークテクノ社のIoTゲートウェイ、東芝社の無線LAN対応SDメモリーカードなどが対応



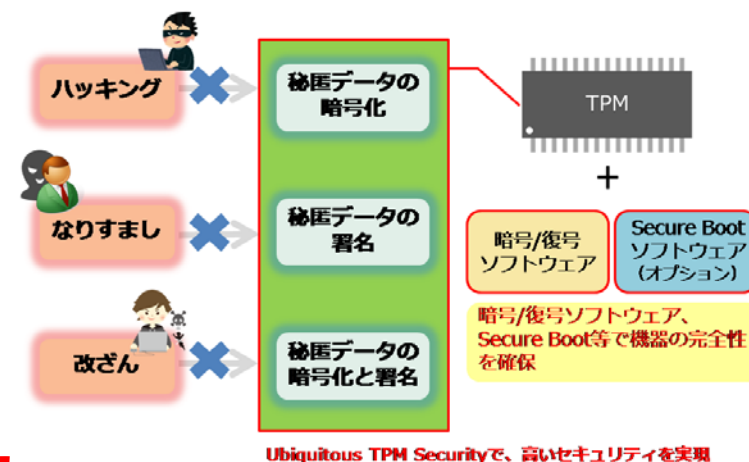
# Ubiquitous TPM Securityの発表

## ■ 2016年5月9日 Ubiquitous TPM\*(Trusted Platform Module) Securityの製品発表

- コンピュータの信頼性と安全性を高める国際業界標準規格のTPM向けのソフトウェアをIoT/組み込みシステム向けに製品化
- TPMはセキュリティの強化に重要な耐タンパ性を高めるための暗号化/複合化、秘密鍵と公開鍵のペア生成、ハッシュ値の計算、デジタル署名の生成と検証などの機能を備えており、この機能を利用するためのミドルウェアを提供
- 2016年5月 20日から発売開始

## ■ セキュアブート、暗号化ドライブ 機器認証やサービス認証など

**高度なセキュリティ対応に向けた  
ソリューション提供、技術コンサルテーションを展開**



\*TPMはインテル社、マイクロソフト社、HP社、IBM社などが推進するTrusted Computing Group(TCG)が定めた国際標準規格

---

# Appendix

# 平成28年3月期 第4四半期 開示一覧

発表日		プレスリリース
第4四半期	2月16日	■ ユビキタス社の高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」累計出荷数700万本を突破!～車載機器OSとしてLinux/Androidの導入が加速し、ニーズが拡大～
	2月26日	■ ボランティア本人認証、スマホでの位置情報の把握にサイバートラスト、ソフトバンク・テクノロジー、NEC、ユビキタス、ワコム国内ITソリューション企業5社が協力スーパーラグビー 2016に参戦するヒト・コミュニケーションズ サンウルブズ国内ホームゲームをサポートする試合運営ボランティア組織「In Touch」による活動をよりセキュアでスムーズにするための実証実験を実施
平成29年 3月期 第1四半期 (参考)	4月20日	■ ユビキタス社、IoTサービスの早期実現を可能にする「IoT開発キット」を5月20日より提供開始～IoTサービス開発用のデバイス、組込みソフト、クラウドプラットフォーム、Webアプリケーションをセットで提供～
	5月9日	■ ユビキタス社、TPM (Trusted Platform Module) 対応ソフトウェアライブラリ「Ubiquitous TPM Security」を5月20日に発売～TPM2.0も今夏対応予定、高いセキュリティ機器の開発を強力にサポート～



# 平成28年3月期 第4四半期 開示一覧

開示日		適時開示
第4四半期	1月5日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	2月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	2月12日	■平成28年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ
	2月15日	■株式の取得（子会社化）に関するお知らせ
	3月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
平成29年 3月期 第1四半期 (参考)	4月1日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	5月2日	■行使価額修正条項付き第11回新株予約権（第三者割当て）の月間行使状況に関するお知らせ
	5月13日	■特別損失の計上及び業績予想との差異に関するお知らせ
	5月13日	■連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ

# (参考)セグメント変更について

IoT(Internet of Things:モノのインターネット) 市場の  
顕在化に伴い、**機器側のネットワークソフトウェアからクラウドプラットフォームまで一体化したソリューションを提供**  
できる事業体制に変更（平成28年3月期第1四半期より）

## ■旧セグメント

セグメント	分野
組み込みソフトウェア事業	ネットワーク関連
	データベース関連
	高速起動関連
サービス事業	サービスプラットフォーム関連

## ■新セグメント

セグメント	分野
コネクティビティ事業	組み込みネットワーク関連
	サービス&ソリューション関連
組み込みソフトウェア事業	データベース関連
	高速起動関連

# 質疑応答概要

---

## 【Q1】

平成28年3月期が期初の業績予想を下回って着地した理由の一つには案件の期ずれがあったが、平成29年3月期の単体の業績予想売上11億円の達成可能性は？

## 【A1】

当社は、4年ほど前より注力市場を車載機器、IoTと新しい市場に変えており、既存顧客との継続案件のストックは増加傾向にあるものの、期初の段階では売上計画の大きな部分が未確定である状況は今期（平成29年3月期）も同様です。

ただ、今期は、前期に投資した人員増や諸活動が貢献してくるものや、業務提携は具体的な案件の目論見があって進めているものもありますので、それらが積み重なって達成可能性のある数字として売上11億円を目標としました。

なお、当社は、商品を作って市場の動向を見ながら販売していきますが、案件の期ずれがあれば、その案件の工数は翌期にずれ込むため、単純に期ずれ案件の収益が、そのまま翌期にプラスされるものではありません。

## 【Q2】

現在の中期計画の3年目（平成29年3月期）の計画は、その次の3力年の成長のために先行投資を積極的に行うという計画であったかと思うが、売上の計画の達成が1年、2年遅れる結果となった今期においても、当初の計画通り、積極的な投資を行う計画が含まれていると理解してよいのか？

## 【A2】

その通りです。

今後の成長のために、IoTのクラウド等の新しい分野の事業企画、開発等の人材を確保してきています。前期も一定数の人員を確保しており、その人員の人件費が今期は通期でコストとしてかかってきます。また、引き続き、若干名の増員を計画しております。一方、前期獲得した人員が今期から本格的に事業に寄与してくることで、成長への加速が進むものと考えています。

# 質疑応答概要

---

【Q3】

平成29年3月期の連結業績目標の資料からは、のれん償却費は115百万円のようにあるが、連結の営業損失が95百万円で単体の営業損失が98百万円ということは、エイム社の利益は、のれん償却費と同程度を想定しているということか、また、その利益の実現は継続的に期待できるものか？

【A3】

エイム社は、かなり堅実に経営をしている会社で少なくとも今期については、そのあたりの利益水準を実現できると見込んでおります。ただ、継続的に実現できるかは、エイム社の現在の顧客基盤を維持しつつ、当社グループとして、当社から紹介できる受託開発案件の増加等当社とのシナジーをどこまで実現できるかにかかわっていると考えております。

【Q4】

IoT市場において、セキュリティ製品・サービスを展開していく上での当社の強みはどのあたりか？

【A4】

まず、IoTは、クラウドがあって、クラウドとデバイスの間をつなぐネットワークがあって、デバイス側のOSやアプリケーションがあって、また、その中に入っているデータで成り立っています。

この全ての領域のセキュリティをひとつの技術、ひとつの会社でカバーすることはできず、各領域で強みをもった技術、会社が存在しています。

たとえば、トレンドマイクロ社は、クラウド側でマルウェア、スパイウェア等を排除する技術といったインターネットセキュリティに強い会社様です。

また、ネットワークを介して信頼できるサービスとこの機器がつながっているかという点では、サイバートラスト社は電子認証局等の技術、サービスを持つ有数の会社様です。

さらに、車載機器は、オープンソースのOSであるLinuxの普及が進んでいますが、Linuxのセキュリティをどう保つか、また、アプリケーションを危険なくプログラミングできるためにはLinuxの専門ベンダーが必要となります。

そして、データをどう守るかについては、TPMという技術がIoTでの活用が近時注目されています。

当社は、TPM等により、データを暗号化、復号化に強みがありますが、それ以外の技術、サービスは、トレンドマイクロ社等パートナー企業様を組むことで、IoTにおいて必要となるセキュリティを一体として、顧客に提案することができるよう体制を整えています。



# Ubiquitous

株式会社ユビキタス Ubiquitous Corporation

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-21-1 明宝ビル6F TEL : 03-5908-3451 FAX : 03-5908-3452